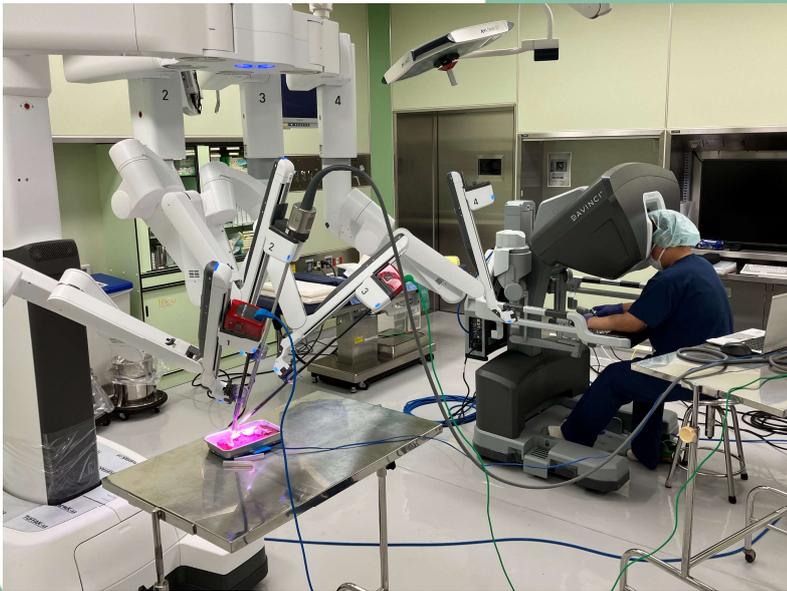


JA全厚連情報



- 1.山梨県厚生連ご紹介
- 2.広報企画課の仕事
- 3.私たちの取り組み
 - ①広報誌「しあわせ号」
 - ②各種イベント運営
 - ③講演くん
 - ④がん教育出前授業
 - ⑤WEBサイト / PWA
 - ⑥キャストアイデア企画
 - ⑦健診に行こうキャンペーン
 - ⑧会内広報
- 4.おわりに



左：手術支援用ロボット（ダヴィンチXi）の導入（JA秋田厚生連 大曲厚生医療センター）
 右：広報研修会（JA山梨厚生連 志村課長講演）

目 次

- J A山梨厚生連の広報活動について研修
広報研修会を開催 1
- J A香川厚生連の経営改善等に対する検討会
経営改善等に対する検討会に参加 6
- 令和6年能登半島地震のDMAT等被災地支援に関してアンケート調査を実施中
アンケート調査へのご協力よろしくお願いいたします。 8

・通信員だより

- 認知症に対する当院の取組みについて（湖東厚生病院） 14
- 手術支援用ロボット（ダヴィンチ Xi）の導入について（大曲厚生医療センター） 15
- B1リーグ会場でJ Aグループ茨城のPR活動（J A茨城県厚生連） 16
- 新採用職員研修会が行われました（相模原協同病院） 17
- 新入職者歓迎会が開催されました（相模原協同病院） 18
- 「リソースナース研修会」を開催（伊勢原協同病院） 19
- YAMANASHI 厚生連メタバースセンターを開設しました（J A山梨厚生連） 20
- 「南伊勢町地域医療ネット（MiCoMnet（みーこむねっと）」の設置について
（南島メディカルセンター） 21
- 第19回健康ふれあいまつりを開催（鹿児島厚生連病院） 22



©よい食プロジェクト

全国厚生農業協同組合連合会
〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル
TEL(03)3212-8000 FAX(03)3212-8008
E-Mail: jigyounei@ja-zenkouren.or.jp
(事業運営支援グループ)
<http://www.ja-zenkouren.or.jp>
編集責任者 中村 純誠



J A厚生連

J A山梨厚生連の広報活動について研修 広報研修会を開催

本会は4月26日、広報研修会をWEBで開催し、22厚生連から64名が参加した。

本セミナーは、効果的な広報の取組み等を学ぶことを目的に開催しており、山梨県厚生農業協同組合連合会 経営戦略部 広報企画課長 志村 直樹 氏から「J A山梨厚生連の広報活動の取組み」について講演いただいた。

講演の中で志村氏は、J A山梨厚生連の広報活動の取組みについて、「受診率向上のためには、①受診機関の信用・信頼、イメージ、②①をどのように伝えていくか、どのように発信していくか、③地域や家庭にどう届けるか、に対する対策をバランスよく向上させる必要があり、3つとも広報が重要な役割を果たすことになる」と述べている。

また、J A山梨厚生連が実際に行っている①広報誌「しあわせ号」、②各種イベント運営、③謙くん信くん、④がん教育出前授業、⑤WEBサイト/PWA、⑥ジャストアイデア企画、⑦健診に行こうキャンペーン、⑧会内広報の活動内容について紹介いただき、がん教育出前授業では、健診を行っているだけでは関わりがない若年層との接点が生まれること、そして子供を通じて家庭にも様々な情報を届けることができるのではないかと考えて活動していることを説明いただいた。

参加者からは、「アイデアから実行までのスピード感を大切にしているところや、職員間でのコミュニケーションを大切にしているところなど、とても参考になる貴重なお話をお聞きできました」「当会では他の農協様と連携したイベント等は行ったことがなかったのが非常に参考になりました」「広報誌も素晴らしいですが、会内誌の取組みが素晴らしいと感じました。スタッフのモチベーション、職場に対する愛着心をくすぐる取組みで、参考になりました」等の感想が寄せられた。

1.山梨県厚生連ご紹介
 2.広報企画課の仕事
 3.私たちの取り組み
 ①広報誌「しあわせ号」
 ②各種イベント運営
 ③謙くん信くん
 ④がん教育出前授業
 ⑤WEBサイト / PWA
 ⑥ジャストアイデア企画
 ⑦健診に行こうキャンペーン
 ⑧会内広報
 4. おわりに

広報関連年表

平成13年(2001年) 現在の健康管理センターが開所

平成16年(2004年) 検診車や結果表の「デザイン」を刷新
 平成17年(2005年) 健康管理システム更新、受診者サービス重視へ
 「受診者」

平成19年(2007年) 30周年活動スローガン「つなげる、やさしさ。」制定
 kind-hearted
 つなげる、やさしさ。

平成22年(2010年) 健康管理センター別館が完成
 平成23年(2011年) しあわせウオーク2011開催
 「クリエイティブに！」
 平成24年(2012年) 第1回 市民公開講座開催
 平成25年(2013年) 着ぐるみ「謙くん信くん」誕生
 平成26年(2014年) 第1回 健診・人間ドック体験記コンクール開催
 平成27年(2015年) 人間ドックWEBサービス稼働
 平成28年(2016年) 厚生連カラダいきいきフェスタ2016開催
 平成29年(2017年) 初の「がん教育出前授業」実施
 平成30年(2018年) 健康管理センター増改築完了
 「逆風を追い風に！」

令和 2年(2020年) 新型コロナ抗体検査、ワクチン接種への協力
 令和 3年(2021年) がん教育情報誌「がんのはなし」創刊 / クイック採血開始
 令和 4年(2022年) WEBサイトリニューアル / 会内広報誌 連載開始
 令和 5年(2023年) 「さあ、健診に行こう。」キャンペーン展開
 「Speed is Power !!」
 山梨県厚生連

1.山梨県厚生連ご紹介
 2.広報企画課の仕事
 3.私たちの取り組み
 ①広報誌「しあわせ号」
 ②各種イベント運営
 ③謙くん信くん
 ④がん教育出前授業
 ⑤WEBサイト / PWA
 ⑥ジャストアイデア企画
 ⑦健診に行こうキャンペーン
 ⑧会内広報
 4. おわりに

1 受診機関の信用・信頼
 健康管理センターのイメージ

- ・社会貢献活動
- ・施設・医療機器の近代化推進
- ・スタッフの高い技術レベルの確保
- ・各種イベントの開催 etc...

2 周知の方策
 情報発信方法の工夫

- ・SNS
- ・スマホアプリ
- ・案内パンフレット
- ・地域の情報伝達ツールの活用 etc...

3 家庭・地域へのアプローチ
 Health Literacy向上

- ・健康教室
- ・がん教育
- ・積極的な情報発信 etc...

受診率向上
 トライアングル

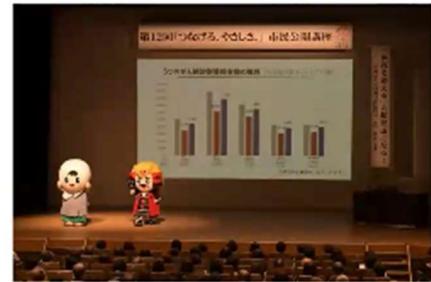
山梨県厚生連

志村氏講演のようす

- 1.山梨県厚生連ご紹介
- 2.広報企画課の仕事
- 3.私たちの取り組み
 - ①広報誌「しあわせ号」
 - ②各種イベント運営
 - ③謙くん信くん
 - ④がん教育出前授業
 - ⑤WEBサイト / PWA
 - ⑥ジャストアイデア企画
 - ⑦健診に行こうキャンペーン
 - ⑧会内広報
- 4. おわりに

謙くん信くん

- ・山梨県ならではの誕生秘話
- ・寸劇のチカラ
- ・愛嬌で新しい年齢層との接点を生む



山梨県厚生連

- 1.山梨県厚生連ご紹介
- 2.広報企画課の仕事
- 3.私たちの取り組み
 - ①広報誌「しあわせ号」
 - ②各種イベント運営
 - ③謙くん信くん
 - ④がん教育出前授業
 - ⑤WEBサイト / PWA
 - ⑥ジャストアイデア企画
 - ⑦健診に行こうキャンペーン
 - ⑧会内広報
- 4. おわりに



山梨県厚生連

志村氏講演のようす

- 1.山梨県厚生連ご紹介
- 2.広報企画課の仕事
- 3.私たちの取り組み
 - ①広報誌「しあわせ号」
 - ②各種イベント運営
 - ③謙くん信くん
 - ④がん教育出前授業
 - ⑤WEBサイト / PWA
 - ⑥ジャストアイデア企画
 - ⑦健診に行こうキャンペーン
 - ⑧会内広報
- 4. おわりに



“予防と検診の専門家”としてできること

子どものうちから生活習慣について学び、
がんの予防につなげる

がんの早期発見・早期治療の大切さや、
がん検診の意味を伝える



令和2年3月2日 山梨日日新聞より

山梨県厚生連

- 1.山梨県厚生連ご紹介
- 2.広報企画課の仕事
- 3.私たちの取り組み
 - ①広報誌「しあわせ号」
 - ②各種イベント運営
 - ③謙くん信くん
 - ④がん教育出前授業
 - ⑤WEBサイト / PWA
 - ⑥ジャストアイデア企画
 - ⑦健診に行こうキャンペーン
 - ⑧会内広報
- 4. おわりに

がんに対する正しい知識を若い世代に伝え、誤解や偏見を無くし、社会全体でがんの予防や早期発見・早期治療に取り組んでいくことで、

みんなで幸せに暮らせるまちづくりに
貢献する。



2023年 JCA主催 第5回地域共生フォーラム発表スライドより

山梨県厚生連

志村氏講演のようす

- 1.山梨県厚生連ご紹介
- 2.広報企画課の仕事
- 3.私たちの取り組み
 - ①広報誌「しあわせ号」
 - ②各種イベント運営
 - ③謙くん信くん
 - ④がん教育出前授業
 - ⑤WEBサイト / PWA
 - ⑥ジャストアイデア企画
 - ⑦健診に行こうキャンペーン
 - ⑧会内広報
- 4. おわりに

・サッカーワールドカップ(カタル大会)

- … 受診者に応援カードとサッカーボールチョコを配布
館内に応援用デジタルサイネージを設置



・クリスマス、バレンタインデー、ホワイトデー

- … メッセージカードを添えてチョコレートを配布



山梨県厚生連

- 1.山梨県厚生連ご紹介
- 2.広報企画課の仕事
- 3.私たちの取り組み
 - ①広報誌「しあわせ号」
 - ②各種イベント運営
 - ③謙くん信くん
 - ④がん教育出前授業
 - ⑤WEBサイト / PWA
 - ⑥ジャストアイデア企画
 - ⑦健診に行こうキャンペーン
 - ⑧会内広報
- 4. おわりに

・「餅つき」

- … 年末に杵と臼で餅つきをし、受診者や来館者に提供



・いえなか美術館

- … 人間ドックフロアに作品を展示



山梨県厚生連

志村氏講演のようす

J A香川厚生連の経営改善等に対する検討会

経営改善等に対する検討会に参加

1 各厚生連が取りまとめた令和5年度の仮決算では、J A香川厚生連のみならず各厚生連とも外来・入院患者数の減少が継続している中ではあるが、医業収入は増加傾向にある。しかしながら、材料費は上昇し水道光熱費は高止まりの状況にあり、この結果、医業費用が増加し医業収益はマイナスとなっている。

加えて、令和5年5月8日をもって新型コロナウイルス感染症が5類とされたことでコロナ補助金が削減となった。5類に移行された後においても、厚生連病院では新型コロナ患者への対応が続いていたことから、補助金削減の影響は厚生連にとって大きいものとなった。このことは、J A香川厚生連にとっても同様である。

2 このような状況の中、J Aグループ香川では、同グループで構成する「J A香川厚生連の経営改善等に対する検討会」を開催し、J A香川厚生連が実践するアクションプランの取組について、四半期ごとに報告を受けることで厚生連において実践が図られていることを確認するとともに、必要な助言又は支援について検討することとしている。本年4月25日に香川県J Aビルの中央会会議室において同検討会が開催されるにあたり、本会からのお願いに応える形で参加要請をいただき当該検討会に参加した。

3 検討会は、J A香川中央会（港義弘・代表理事会長）、J A香川県（村川進・代表理事理事長）、J A香川信連（森末敬三・代表理事理事長）、J A共済連香川（井上徳久・本部長）、J A香川厚生連（田宮隆・代表理事理事長）ほかに参加し開催された。

(1) 協議事項として、①令和5年度決算および農林水産省によるヒアリング結果について、②令和5年度決算における毀損額の処理について、③令和6年度における厚生連に経営改善施策と当面の取組みについて、④J A香川厚生連の経営改善等の取組みに対する支援体制について、報告が行われ協議が開始された。

J A香川厚生連が開設する屋島総合病院、滝宮総合病院では、アクションプラ

ンを年度ごとに策定し、それに基づき経営改善施策の進捗管理を行っているとの報告に関し、アクションプランを経営改善の施策としているが、病院の財務・収支の管理・改善には直結していないのではないかという意見が出された。

- (2) これに関連し、本会からは、医療行政は、原則2年に1度の診療報酬改定により経営が左右されることとなるため、病院を取り巻く環境や置かれている状況を詳細に把握・分析する必要があるが、複雑化している診療報酬制度下では、何らかのツール・手段がなければ困難な状況となっていると考えている。

そのような状況から脱却し、経営の健全化に取り組んでいくには、一つの手法として病院の現状を客観的に見ることができると期待されているデータ分析ソフトを活用し、経営と連携させていくことが必要ではないか。JAグループ香川においても、本日出席されている経営のプロの皆様にはJA香川厚生連の実態を客観的に説明・管理できるデータ等が必要と考えている。

- (3) JA香川厚生連では、JA香川グループの助成を受けDPCデータ分析ソフトを導入することとしており、自施設での比較や全国の厚生連病院との比較等に活用して収益増等に繋げていく予定であると聞いている。各厚生連でも取り組んでいるが、病院単位や診療科単位で抽出されるDPCデータによる客観的なデータを活用し、経営・財務に反映させていくことが重要となっている。

本会でも、今年度にDPCデータ分析ソフトの更新を予定しており、JA香川厚生連に本会と同一のソフトを導入してもらうことで、DPCデータの分析を行う際に、相互に相談や協力をしながら取り組んでいくことが可能となる。

- 4 一方、医療資材には単体でも高額なものが多く、経費削減を図るうえで検討が必要となってくる。JA香川厚生連以外の厚生連では、医療資材の調達方法を見直し、経費削減に取り組んでいる厚生連も出てきている。JA香川厚生連としては、聖域なき見直し検討に取り組んで行ってほしい。

令和6年能登半島地震のDMAT等被災地支援に関して アンケート調査を実施中

アンケート調査へのご協力よろしくお願いたします。

1. 調査実施の経過

令和6年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」においては、厚生連から多数のDMAT等の災害派遣チームを派遣し、各チームの活動状況等が日本農業新聞等で積極的に紹介されており、国等関係機関で高い評価いただいております。

特に、地震発生後の初動対応については、自由民主党議員連盟「農民の健康を創る会」総会において、森山会長をはじめ多数の国会議員並びに厚生労働省及び農林水産省から感謝の言葉をいただいております。

本会では、今回の地震においては、多くの厚生連チームが派遣されている状況を鑑み、被災地での支援状況等の取りまとめを行いたいと考えております。それぞれ地震等の災害の状況は異なるものと考えておりますが、次ページに記載しました「今後の対応」に繋がりたいと考えております。

各厚生連（DMAT等）の状況について、以下のとおり、各厚生連宛に調査の依頼を行っておりますので、関係者の皆様のご協力をお願い申し上げます。

【調査依頼内容（抜粋）】

1. 調査内容

- ・派遣種別、派遣メンバー、派遣期間、活動場所、活動内容
- ・被災地支援の経験、今回の被災地の状況、現場での課題や今後の対応

2. 調査回答者

- ・災害派遣チームの医師・看護師・業務調整員のそれぞれの視点で回答をお願いいたします。なお、1チームにつき、複数回答も可能です。チーム全体としてまとめた回答も可能です。
- ・JMAT等の一員として、他の医療機関と合同で派遣された方も回答をお願いいたします。
- ・被災地（現場）での支援に限らず、県庁等での支援も含みます。

3. 調査回答方法

調査回答方法の詳細については、令和6年5月2日付JA全厚事運支発第21号「令和6年能登半島地震のDMAT等被災地支援に関するアンケート調査について（協力依頼）」に記載しておりますので、そちらをご確認ください。

※ PDFからの直接リンクURLとQRコードを掲載しております。

4. 今後の予定

DMAT等被災地支援の状況の取りまとめを行い、各厚生連へ情報共有するとともに関係機関へ要望等をいたします。

2. 調査回答方法

今回の調査では、災害派遣チームの医師・看護師・業務調整員等のそれぞれの視点から回答できるように、スマホ等からQRコードを読み込むことで、WEB（フォーム）回答できるようにしております。多くの方からの意見をいただければと思います。

特に、「現場での課題や今後の対応」については、各個人のそれぞれの視点からの気づきを回答していただきたいと考えております。何かお気づきの点がございましたら、なんでもかまいませんので、ご回答ください。

3. 今後の対応

本会では、今回の令和6年能登半島地震にかかる被災地支援の関係者から多くの意見をいただくことで、国等の政策関係機関（厚労省・農林水産省・自民党など）や医療関係団体（公私病院連盟・日本病院会など）、JA関係団体（JA全中など）へ要望等を行う際の有効な資料となるよう取りまとめを行い、今後の災害対応の一助となるよう対応していきたいと考えております。

4. その他

なお、既にいくつかの回答をいただいております、以下の意見をいただいております。
この他にも気づいた点等がありましたら、アンケートへの協力をお願いいたします。

- ・今回の災害では特に水の問題解決が遅れることでの、病院業務継続困難、生活困難、保清困難などからの衛生管理困難などが見られたと思われる。(上水のみならず下水も。)しかし、今後、生じるどの災害においても、それがネックになるかは不明。必要なニーズを適切に吸い上げ、適切なタイミングで適切な部門に発信、その後適切に配分するシステムが必要かと愚考する。
- ・物資の搬送手段について、灯油の分配、配送をDMATが行っていたが、他に適切な手段はなかったのか。
- ・物資の補給・融通が厚生連間で出来たら非常にありがたいと感じた。(日本赤十字社が、宿泊場所手配や資機材の調達を石川県支部で一括管理しているのを見て羨ましかった)
- ・本部と現場では活動内容、状況に差がありすぎると思った。現場に配属されたDMATは、思ったような活動が出来ず混乱していたり、移動に時間がかかり夜遅くまで活動したりしたと聞いた。本部に入ったDMATは落ち着いてる時間もあり、定時で活動も終わり、現場に助けに入りたいと思うこともあった。
- ・情報の共有方法、同じ避難所支援なのにDMATは知っててJMATは知らない事があったり、保健所は医療支援が必要な避難者リストを持っているがJMATはそれを知らないなど
- ・看護師不足の医療施設が多く、活動拠点本部所属の看護師のほとんどが医療施設へ派遣された。また避難所から勤務される看護師も多く、早い段階で看護師の派遣(看護協会など)が考慮されても良かったのではと考える。
- ・自分たちの事業所もBCPを作成しているが、自分の事業所のマンパワーでどうするかを想定しているが、自前ではどうすることもできないことも想定して、事業所を超えた支援体制、外部支援を受け入れる訓練や想定が必要と感じた。
- ・断水がほとんどだったので簡易トイレは多めに準備しておくべきでした。
- ・移動の車は2台目があれば物資搬送など人が乗る分にも余裕がうまれると感じました。
- ・当院で準備していた食料は現場に適した物が少なく、早急に見直しが必要であると感じた。
- ・現場での電源確保のためにもポータブルバッテリーは必要であると感じた。
- ・協定の締結を一病院で行うことはなかなか難しい部分もある、本所(もしくは上位組織)の協力はできないか。協定等があれば早い段階で必要物品を大量投入できるのではないかな。



2. 厚生連の対応等

(1) 厚生連施設からの職員の派遣状況 [4月1日12時調査時点] DMAT等の職員の派遣 派遣総数464名(75班)

厚生連名	派遣元施設名	派遣内容	厚生連名	派遣元施設名	派遣内容	厚生連名	派遣元施設名	派遣内容
北海道	帯広厚生病院	8名(2班)	長野	北信総合病院	19名(4班)	愛知	江南厚生病院	11名(2班)
	帯広厚生病院	1名(注1)		篠ノ井総合病院	4名(0班)		江南厚生病院	1名(技師)
	帯広厚生病院	1名(0班)		篠ノ井総合病院	20名(4班)		江南厚生病院	7名(0班)
秋田	能代厚生医療センター	3名(1班)		篠ノ井総合病院	1名(0班)		江南厚生病院	1名(0班)
	能代厚生医療センター	1名(JMAT)		篠ノ井総合病院	1名(JMAT)		海南病院	12名(3班)
	秋田厚生医療センター	8名(2班)		篠ノ井総合病院	1名(DWAT)		豊田厚生病院	9名(2班)
	大曲厚生医療センター	4名(1班)		あづみ病院	2名(MSW)		豊田厚生病院	1名(0班)
	平鹿総合病院	4名(1班)	新潟	糸魚川総合病院	4名(1班)		豊田厚生病院	1名(技師)
	由利総合病院	6名(1班)		柏崎総合医療センター	4名(1班)		豊田厚生病院	1名(JMAT)
	北秋田市市民病院	5名(1班)		村上総合病院	4名(1班)		稲沢厚生病院	5名(1班)
	雄勝中央病院	5名(JMAT)		佐渡総合病院	10名(2班)		稲沢厚生病院	1名(JMAT)
	かつの厚生病院	4名(1班)	富山	厚生連高岡病院	24名(5班)		知多厚生病院	5名(1班)
福島	白河厚生総合病院	5名(1班)		厚生連高岡病院	1名(0班)		足助病院	1名(栄養)
	白河厚生総合病院	6名(JMAT)		厚生連高岡病院	2名(JMAT)	三重	松阪中央総合病院	8名(0班)
	総合病院土浦協同病院	10名(2班)		厚生連高岡病院	4名(0班)		松阪中央総合病院	21名(6班)
茨城	JAとりで総合医療センター	5名(1班)		厚生連高岡病院	9名(技師)		松阪中央総合病院	5名(0班)
	茨城西南医療センター病院	4名(1班)		厚生連高岡病院	6名(JMAT)		鈴鹿中央総合病院	11名(3班)
	水戸協同病院	1名(0班)		厚生連滑川病院	1名(技師)		鈴鹿中央総合病院	2名(0班)
上都賀	上都賀総合病院	4名(1班)	岐阜	中濃厚生病院	17名(4班)		孤野厚生病院	3名(注2)
	上都賀総合病院	1名(0班)		中濃厚生病院	1名(0班)		いなべ総合病院	5名(1班)
佐野	佐野厚生総合病院	5名(1班)		久美愛厚生病院	11名(2班)		いなべ総合病院	3名(0班)
	佐野厚生総合病院	2名(0班)		西濃厚生病院	10名(2班)		大台厚生病院	2名(0班)
神奈川	相模原協同病院	5名(1班)	静岡	遠州病院	1名(技師)	広島	広島総合病院	4名(1班)
	相模原協同病院	2名(0班)		遠州病院	1名(JMAT)		尾道総合病院	4名(1班)
	相模原協同病院	1名(0班)		静岡厚生病院	1名(技師)	山口	周東総合病院	5名(1班)
	伊勢原協同病院	4名(JMAT)		清水厚生病院	1名(技師)		長門総合病院	4名(JMAT)
長野	佐久医療センター	26名(5班)	愛知	安城更生病院	15名(3班)	徳島	阿南医療センター	1名(0班)
	佐久医療センター	2名(0班)		安城更生病院	2名(0班)		阿南医療センター	4名(1班)
	佐久医療センター	2名(JMAT)					阿南医療センター	1名(JMAT)
							吉野川医療センター	6名(JMAT)

注1 医師1名(派遣DMAT有資格者)が能登医療圏DMAT活動拠点本部に残り、主に病院支援や情報収集等のロジスティクスを専門とした活動を行うDMATロジスティクスチームとして活動
 注2 厚生連内の他病院のDMATチームに職員を派遣
 注 JMAT(日本医師会災害医療チーム)として活動)、ロジ(ロジスティック(業務調整員)として活動)、栄養(JDA-DAT(栄養士学会災害派遣)として活動)、技師(DVT検査チームとして活動) ナース(災害支援ナースとして活動)、JMAT(大規模災害リハビリテーション支援関係団体協議会として活動)、MSW(災害福祉広域支援ネットワークとして活動)



(2) 令和6年能登半島地震のDMAT活動状況 [1月31日12時現在]

日付	活動中のDMAT数				厚生連派遣 (全厚連調査)			
	公表時点	派遣総数	うち病院	派遣数 (総数)	派遣数 (うち病院)	厚生連の割合 (総数)	厚生連の割合 (うち病院)	
1月1日	22:00	9	5	-	-	-	-	
1月2日	5:00	12	7	-	-	-	-	
1月2日	10:00	18	12	15	11	83.33	91.67	
1月2日	14:00	27	18	15	11	55.56	61.11	
1月3日	4:00	38	27	27	23	71.05	85.19	
1月4日	16:00	89	68	27	23	30.34	33.82	
1月5日	11:00	148	118	24	22	16.22	18.64	
1月9日	12:00	153	123	16	16	10.46	13.01	
1月10日	11:30	149	118	15	14	10.07	11.86	
1月11日	12:00	156	117	16	13	10.26	11.11	
1月12日	12:00	249	208	18	17	7.23	8.17	
1月15日	12:00	206	167	10	7	4.85	4.19	
1月16日	12:30	181	142	9	6	4.97	4.23	
1月17日	6:00	199	162	8	6	4.02	3.70	
1月18日	6:00	126	81	10	7	7.94	8.64	
1月19日	6:00	166	114	9	7	5.42	6.14	
1月22日	6:00	149	118	10	7	6.71	5.93	
1月23日	6:00	161	125	9	7	5.59	5.60	
1月24日	6:00	152	115	8	7	5.26	6.09	
1月25日	6:00	152	115	7	6	4.61	5.22	
1月26日	7:00	162	120	7	6	4.32	5.00	
1月29日	0:00	122	87	5	4	4.10	4.60	
1月30日	12:00	107	81	5	4	4.67	4.94	

※ 出典：厚生労働省「石川県能登地方を震源とする地震による被害状況等について」 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_37198.html

※ 全厚連調査は活動日のみのため、厚労省の公表時点とは異なる。

【参考】 災害拠点病院数 (令和5年4月1日時点) 770病院 (厚生連45病院5.8%)

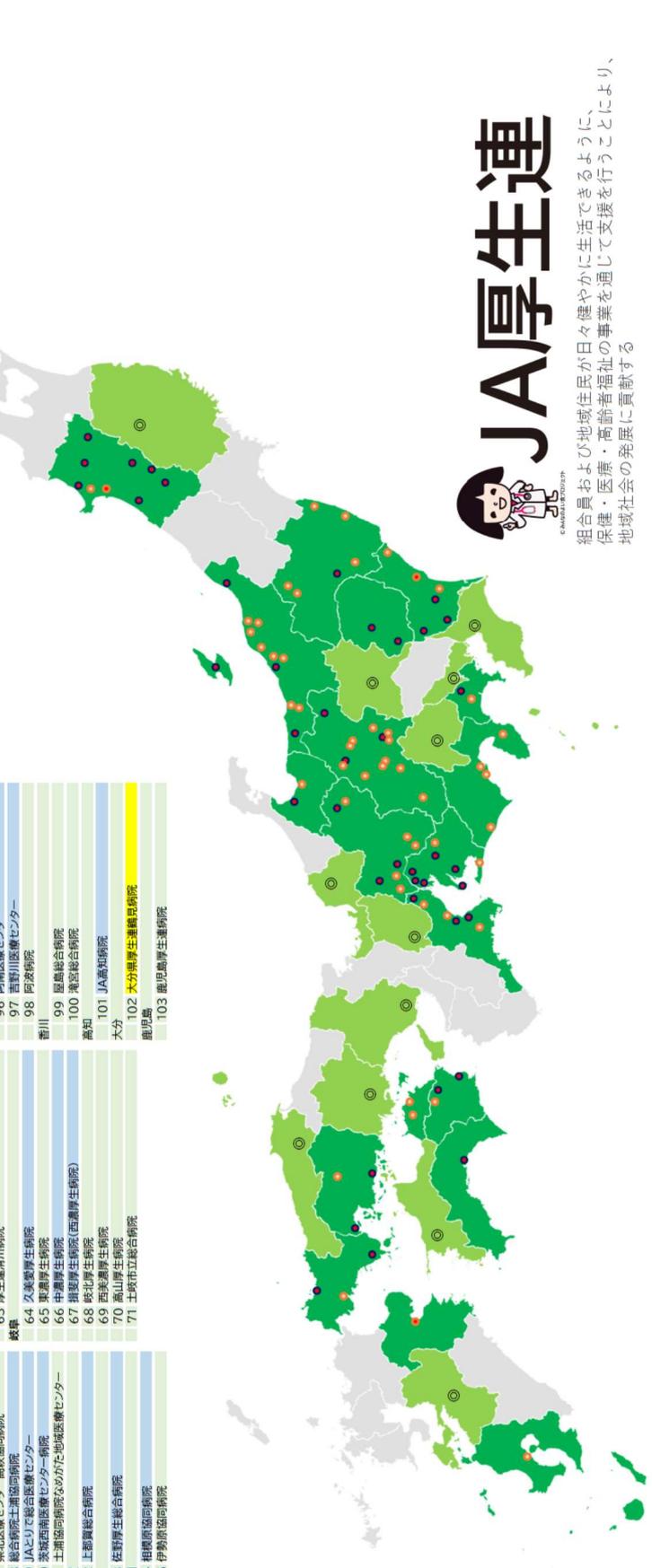
DMATの登録医療機関数 838施設 (厚生連48病院 (5.7%)) EMISより

JA厚生連病院位置図 (103病院) 令和5年4月1日時点

DMATの登録有 (48病院)

- 災害拠点病院 (45病院) 左表の青色網掛け
- DMAT有 (3病院) 左表の黄色網掛け

北海道	1 旭川厚生病院	72 JA帯広厚生連基山病院
	2 帯広厚生病院	73 JA帯広厚生連帯広厚生病院
	3 札幌厚生病院	74 JA帯広厚生連帯広厚生病院
	4 遠軽厚生病院	75 JA帯広厚生連川上(1)・(2)中野登良原病院
	5 網走厚生病院	
	6 稚子厚生病院	76 安部厚生病院
	7 厚別厚生病院	77 旭川病院
	8 もか町釧路川厚生病院	78 江別厚生病院
	9 美深厚生病院	79 南厚病院
	10 帯広厚生病院	80 藤田厚生病院
秋田	11 かづの厚生病院	81 郷沢厚生病院
	12 北秋田市民病院	82 足利病院
	13 鹿角厚生医療センター	83 邦多厚生病院
	14 雄勝厚生病院	
	15 秋田厚生医療センター	84 松隈中央総合病院
	16 田利総合総合病院	85 新藤中央総合病院
	17 大曲厚生医療センター	86 三鷹北医療センター-浪野厚生病院
	18 平磯総合病院	87 三鷹北医療センター-いなほ総合病院
	19 雄勝中央病院	88 水台厚生病院
福島	20 白河厚生総合病院	89 幹線厚生病院
	21 槻野厚生病院	
	22 高田厚生病院	90 尾道総合病院
	23 坂下厚生総合病院	91 互田総合病院
	24 鹿島厚生病院	92 藤島総合病院
	25 双葉厚生病院	93 藤野総合病院
茨城	26 総合病院水戸総合病院	94 野門総合病院
	27 総合医療センター-高市総合病院	95 小野第一総合病院
	28 総合病院土浦総合病院	
	29 IAH(1)総合医療センター	96 阿南医療センター
	30 茨城柏原医療センター病院	97 吾野川医療センター
上野真	31 土浦協同病院(元のかた地区医療センター)	98 阿波病院
	32 上野真総合病院	99 鹿島総合病院
佐野	33 佐野厚生総合病院	100 鹿島総合病院
神奈川	34 相模原協同病院	101 JA葛城病院
	35 伊勢原協同病院	102 大分県厚生連鶴見病院
		103 鹿児島厚生連病院



JA厚生連



組合員および地域住民が日々健やかに生活できるように、
保健・医療・高齢者福祉の事業を通じて支援を行うことにより、
地域社会の発展に貢献する



認知症に対する当院の取組みについて

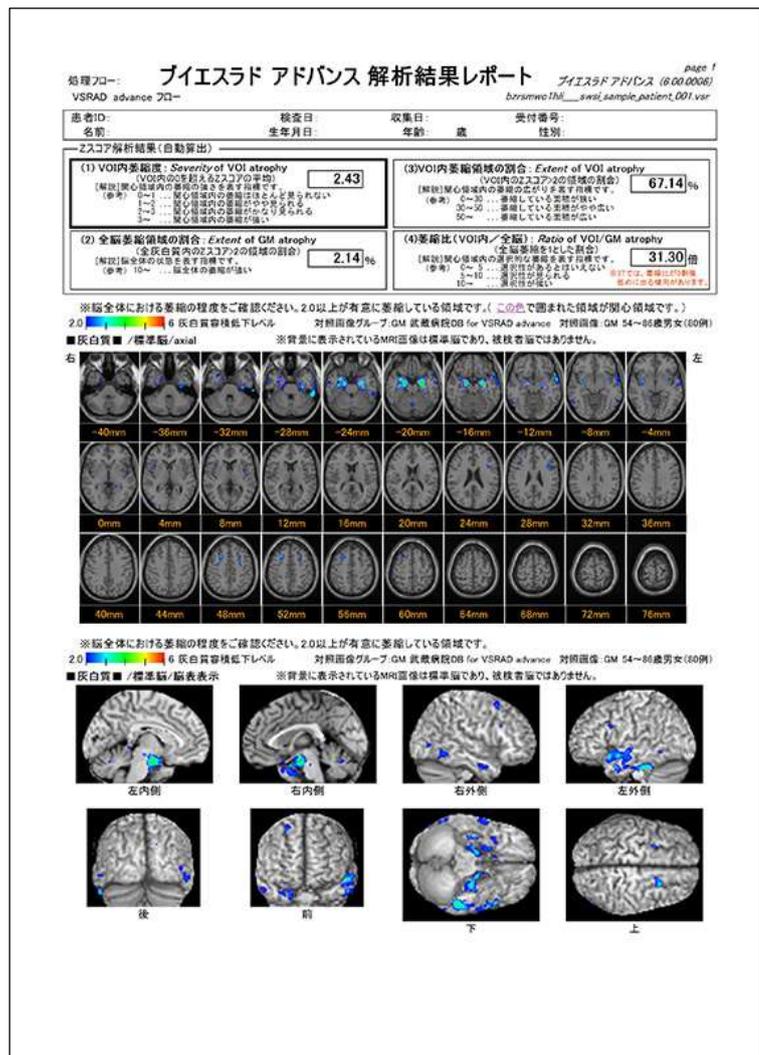
(J A秋田厚生連・湖東厚生病院)

湖東厚生病院（波多野善明病院長）では、認知症または何らかの認知症状を呈する方の入院が4割を超えています。そのような方が安心して適切に治療を受けられるように認知症ケアサポートチームを設置し、認知症認定看護師を中心に医療活動を行っています。ケアサポートチームは、医師・薬剤師・社会福祉士・作業療法士・栄養士・看護師で構成され、それぞれの視点で入院から退院までをサポートしています。入院時に認知機能を判断し、チームカンファレンスを行い、ラウンドでは患者さんの入院環境、身体機能、コミュニケーション能力、薬剤の影響等をチェックします。そのうえで点滴ルート対策、ベッド配置、疼痛、脱水、排便コントロールの必要性、睡眠や向精神薬等の調整を退院時までに行い、退院後について家族や施設等にも丁寧にアドバイスしています。

また、外来ではもの忘れ等の認知症状や介護等で困難や不安を感じている本人や家族に対して、認知症認定看護師による「もの忘れ相談」を実施するなど、必要なアドバイスを行っています。

2月には主にアルツハイマー型認知症診断の判断材料として活用できる脳萎縮評価支援システム（VSRAD）を導入しました。

今後も認知症患者さんの治療や認知症状に不安を抱えるご家族を支えられるように努めていきます。



脳萎縮評価支援システム(VSRAD)

(淡路明美通信員)

手術支援用ロボット（ダヴィンチ Xi）の導入について

（JA秋田厚生連・大曲厚生医療センター）

大曲厚生医療センター（三浦康病院長）は秋田県南地域において、最も多い年間2,000件を超える全身麻酔下手術を実施しており、より高度な医療提供が求められています。そのような中、2月中旬に患者さんへの負担が少ない低侵襲の術式として注目されている手術支援用ロボット（以下ダヴィンチ Xi）を導入しました。

ダヴィンチ Xi は秋田県内で、秋田大学医学部附属病院、市立秋田総合病院に続き3施設目で、県南地域では初めての導入となりました。

この手術支援ロボットは立体的に映し出される拡大視野により、人の手のような繊細な操作ができ、従来の腹腔鏡下手術等では不可能であった複雑な手技が可能となります。また、低侵襲な手術が施されるので患者さんの負担も軽減されます。

新年度になり、早速4月2日には1例目となる前立腺全摘出術を実施するなど、運用は順調に滑り出しております。今後も患者の皆様の健康維持につなげるよう、先進医療を地域に提供してまいります。



ダヴィンチ Xi

（淡路明美通信員）

B1リーグ会場でJAグループ茨城のPR活動

(JA茨城県厚生連)

プロバスケットボール男子1部リーグ（B1リーグ）「茨城ロボッツ vs 宇都宮ブレックス」戦が、5月4日、5日、アダストリアみとアリーナで行われました。

今回は、茨城ロボッツのスポンサーであるJAグループ茨城の主催試合ということでJA茨城県厚生連も一緒になり、ブースでは野菜摂取量を可視化する機器「ベジチェック」の体験や、「米こうじイチゴラテ」の販売を行いました。

また、先着順の数量限定でJA水郷つくばの「納豆ライス」、全農の「いばらキッスグミ」の他、各連合会で用意したノベルティグッズを配布するなど、来場者に様々なPR活動を行いました。

更に、ハーフタイムショーで行われた抽選会では、茨城県が誇る銘柄牛「常陸牛」、茨城県産メロン、茨城県産米「ふくまる」2kgなど、豪華な賞品がプレゼントされました。

試合は、初日が59-100、2日目は64-88で、残念ながら茨城ロボッツは2連敗となりましたが、リーグ最終戦ということで互いに素晴らしいプレーの応酬となり、白熱した戦いが繰り広げられました。

今回のJAグループ茨城の活動については、茨城ロボッツのブースター（サポーター）はもちろん、宇都宮ブレックスのブースターからも関心が寄せられ、大きなPRの成果を感じ取ることができました。

JA茨城県厚生連は、今後もJAグループ茨城の一員としてこのような活動に参画し、地域を盛り上げていきたいと思っております。



ベジチェックを案内するJAグループ茨城スタッフ

(酒井一彦通信員)

新採用職員研修会が行われました

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

相模原協同病院（渋谷明隆病院長）では、4月1日、2日、3日の3日間にわたり令和6年度入職者向けの研修会が行われました。

一般的なビジネスマナーから当院の基本理念や各部門の役割、院内感染対策など、当院の一員として必要となるスキルを習得しました。新しい一歩を踏み出した新入職者の皆さんの活躍に期待しています。



新採用職員研修会の様子

(増田佳一通信員)

新入職者歓迎会が開催されました

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

相模原協同病院（渋谷明隆病院長）では、京王プラザホテルにて新入職者歓迎会が盛大に開催されました。

始めは緊張している様子でしたが時間が経つにつれ、表情が明るくなっていきました。歓談の際は仕事上での垣根を越えた交流の場となり、親交を深め、新入職者の横のつながりだけでなく、縦のつながりも強くなったのではないのでしょうか。



新入職者歓迎会の様子

(増田佳一通信員)

「リソースナース研修会」を開催

(JA神奈川県厚生連・伊勢原協同病院)

伊勢原協同病院（鎌田修博病院長）では、院内外の医療関係者を対象にリソースナース研修会を定期的に行っています。5月7日に行われた講演では「ここに注意！ 血糖測定とインスリン」と題し、糖尿病看護認定看護師が血糖やインスリンについての基礎知識や正しい血糖測定のポイントなどを解説しました。

当院で使用されている自己血糖測定器の紹介のほか、医療事故防止ポイントからインスリンの歴史まで幅広く取り上げられ、血糖測定やインスリンへの知識を深められる有意義な講演となりました。

当日は多くの参加者が集まり、椅子が足りなくなるほどの大盛況となりました。



リソースナース研修会の様子

(増田佳一通信員)

YAMANASHI 厚生連メタバースセンターを開設しました

(JA山梨厚生連)

山梨県厚生連健康管理センターではこの度、スマートフォンやパソコンからアクセスすることができるもう一つの厚生連健康管理センター「YAMANASHI 厚生連メタバースセンター」を開設しました。

この空間はWEBブラウザを使ってどなたでもアクセスでき、自身の分身である「アバター」を操作して空間内を自由に移動することができます。現在は厚生連の資料展示やVR動画による内視鏡検査体験、人間ドックバーチャル見学ツアーなどをご用意しているのみですが、今後はイベント会場や利用者の交流の場、新たな事業プラットフォームとしても利用したいと考えています。

スマートフォンやタブレット、パソコンなどからぜひ一度、YAMANASHI 厚生連メタバースセンターに遊びに来てください。

<山梨県厚生連健康管理センターホームページ>

<https://www.y-koseiren.jp/koseiren/5041>



ロビー



内視鏡VR動画



セミナールーム



他のユーザーとの交流

YAMANASHI 厚生連メタバースセンター

(志村直樹通信員)

「南伊勢町地域医療ネット (MiCoMnet(みーこむねっと))」の設置について

(JA三重厚生連・南島メディカルセンター)

5月1日、南島メディカルセンター(宮崎光一病院長)(以下「当センター」と町立南伊勢病院(以下「町立病院」)は、南伊勢町全体の医療・ケアを一体的に提供する体制を整え、将来にわたり持続可能な地域医療・へき地医療体制を構築する連携拠点として「南伊勢町地域医療ネット」を設置しました。町立病院を基幹病院とし、代表は同院の山添尚久院長、副代表は当センターの宮崎光一院長が務めます。なお、呼称(略称)は、「MiCoMnet(みーこむねっと)(Minamiise Community Medical Network)」です。

両医療機関は、令和3年9月に締結された南伊勢町と三重県厚生連との「南伊勢町の地域医療・ケアに関する包括連携協定」を契機として、医師・看護師等の相互派遣、地域連携業務の協働化、電子カルテシステムの共通化、合同研修会の開催など連携関係を深めてきました。しかしながら、急速な人口減少と高齢化に伴う患者減少、医師や看護師等の人材確保に困難を極めるなどとりわけ南伊勢町の医療・ケアを取り巻く環境は厳しさを増してきています。「南伊勢町地域医療ネット」設置を機に、両医療機関の連携・協力体制をさらに深化させ、訪問診療の拡大やオンラインによる遠隔診療(D to P with N等)、また相談窓口の一本化など町民に必要とされる医療・ケアの提供体制づくりを目指してまいります。



「南伊勢町地域医療ネット」の設置式の様子

(井澤智子通信員)

第19回健康ふれあいまつりを開催

(JA鹿児島県厚生連・鹿児島厚生連病院)

5月19日、鹿児島厚生連病院（徳重浩一病院長）において第19回健康ふれあいまつりを5年ぶりに開催しました。

このまつりは、地域に開かれた医療機関として地域住民の方々との交流を深める目的で開催をしているもので、当日は晴天に、恵まれて約1,200名もの皆様にご来場いただきました。

会場では、内視鏡手術模擬体験やエコー（腹部超音波）体験、手洗い法体験といった体験コーナーや、血圧測定・血糖測定・握力測定・健康相談などの健康チェック、子どもを対象としたチャリティーイベント、JAグループによる本県農畜産物の販売や各種展示、うどん・そば・冷やしぜんざいの模擬店など様々な催しを行いました。

また毎年恒例の八幡小学校金管バンドによる演奏は、大人顔負けの迫力のある音色を奏でてとても盛りあがりました。そのほか鹿児島大学うた部の歌や、鹿児島情報高校吹奏楽部の演奏と盛りだくさんの内容で会場を盛り上げてくださいました。

なお、チャリティーイベントの売上金と当日、設置した募金箱に入っていたお金は令和6年 能登半島地震災害支援義援金として、日本赤十字社鹿児島県支部を通じて全額寄付しました。



健康ふれあいまつり開催の様子

(中條讓通信員)